

# 日本を好きになってもらいたい

— “NGK 留学生基金” がめざすもの



NGK インターナショナルハウス (名古屋市)

日本ガイシ (NGK) は、企業行動指針の冒頭に「企業市民として国内、海外を問わず 広く社会にとって有益な存在であり続けたいと願っています」と謳<sup>うた</sup>っている。その考え方に基づき NGK グループは、「人・教育」「環境保全」「地域とのかかわり」を活動の軸として、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

当社は創業以来、世界の各地で活動を続け、駐在員がそれぞれの地で暮らす人々から温かい支援を受けてきた。そういった好意に対して、今度は私たちが恩返しをする段階になったと考えて始めたのが留学生支援事業である。世界の人々との信頼関係を築くにはお互いの文化や価値観を理解し合うことが必要である。そのためにも、留学生を通じた交流で、日本への深い理解と好意を持った人材を育む活動を展開することには大きな意義があると考えたのである。

## 留学生手づくりの“語学講座”

1998 年に設立した「財団法人 NGK 留学生基金」(理事長・柴田昌治) は、愛知県内の大学・大学院で学ぶ留学生 40 人に宿舍を提供、20 人には奨学金を支給しており (計 60 人)、支援留学生の数は 2009 年度までに累計 476 人に上っている。専用宿舍“NGK インターナショナルハウス”を建設した理由は、安全で快適な住環境を整え、安心し

日本ガイシ(株) 総務部 総務グループ  
サブマネージャー 出口 豊  
田崎八重子

て勉強や研究に専念してもらいたいと考えたからである。

そして地域の国際化に少しでも役立てることができないかと考え、留学生の皆さんと相談したところ、地域の方を呼んで語学教室をやってみてはどうかということになった。もともと外部の語学教室でアルバイト経験がある人もおり、留学生自身もやりやすいということで、2000 年から手づくりの「語学講座」をスタートさせた。

開始時は中国語のみだったが、現在は留学生の多い中国語と韓国語の 2 講座を宿舍内のホールで実施。楽しく外国語に触れてもらうことを目的に、基本的な発音や日常会話中心に学んでもらっている。回数は年間 20 回～24 回、できるだけ多くの地域の方と知り合え、一方で勉学にも支障がないように、5 人の留学生で 1 人 4 回から 5 回



ハウス個室と  
スタディールーム

くらいを担当するローテーションで実施している。

語学講座の講師を務めた韓国出身のキムさんは「地域の方々に韓国語



韓国語講座で学ぶ地域の皆さん

を通じて自分の国のことを知ってもらえるのは楽しいことで、苦労だとは思いません。大学院での研究は大変ですが、NGK 留学生基金の支援には感謝しています」と話し、語学講座に参加した方からも「講座は回を重ねるたびに和やかな雰囲気になり、半年間、楽しく学習することができました。講師の方々も親切に教えてくださいましたし、日本語がお上手なことにも感心しました」という感想が寄せられている。

## 国と国をつなぐ“異文化交流”

中国、韓国以外の国は留学生が少なく、もし語学講座を組むと留学生の負担が大きくなってしまふ。そこで、そういう留学生も参加でき、出身国の紹介を通じて地域の方と交流することができるように始めたのが「異文化交流会」である。

スタートは2006年からで、募集人員は20人。当初は何人参加してくれるか心配したが、町内会の回覧板でお知らせすると興味を持ってくれる人が意外と多く、予想以上の応募者があった。

受講生は年間10回受講するが、講師は毎回異なる。毎週行くたびに先生も国も変わり、さまざまなお国自慢料理や衣装、流行りの文化を教えてくださいということで人気が高く、語学講座と同様、毎回抽選をしているほどだ。受講者の年齢層は中学生から80歳代の方までと幅広い。交流会を続けているうちに、宿舎を出なくてはいけなくなった留学生に私のアパートにおいでよと勧める方がいたり、一時帰国する留学生と一緒にその国へ行く方もいたりするケースもあるほど地域の方と留学生との交流も着実に深まってきた。

異文化交流会の講師を務めたネパール出身のシャンティさんは「交流会ではネパールのアロマ

とヨガを紹介し、特にイスに座ったままでできるヨガの呼吸法は好評でした。ネパールに帰国したら、母国を広く知ってもらえるような仕事をしたいと考えています」と話した。

留学生支援事業は担当部門だけではなく日本ガイシとしての活動であることを従業員にも理解してもらいたいと考え、2008年から従業員向けの異文化交流会を始めた。最初は募集をかけても参加者が集まらず苦勞をしたが、口コミもあり社内でも定着してきた。「内モンゴル交流会」参加者からは「未知の世界に触れることができて、今まで持っていたモンゴルの印象が広がりました。おいしいモンゴル料理も試食できて、何もかも本当に楽しい体験でした」といううれしい感想が寄せられた。



内モンゴル交流会で民族音楽を披露する留学生

\*

地域の語学講座、異文化交流会の延べ受講者数は557人を超えた。宿舎の近くでは講座に参加した方から声をかけられたりすることもあり、当社の活動にかける思いが地域の方に理解されてきたことを実感する。

この地で学ぶ留学生たちが日本への理解を深め、やがては日本と母国との架け橋になってくれることを願っている。 ■

### ■日本ガイシの社会貢献

[http://www.ngk.co.jp/csr/sp02\\_society/index.html](http://www.ngk.co.jp/csr/sp02_society/index.html)